

## 平成 25 年度第 2 回 海岸工学委員会幹事会議事録

開催日時：平成 26 年 4 月 11 日(金) 14:00～17:50

開催場所：土木学会 2 階 A 会議室（東京都新宿区四谷 1 丁目 外濠公園内）

出席者：以下の 24 名の委員長，副委員長，幹事長，小委員長，主査，副小委員長，委員兼幹事，幹事  
佐藤委員長，青木副委員長，佐々木幹事長

岡安，柿沼，森，渡部の各小委員長，北野主査，川崎，越村，田島，中山の各副小委員長

小笠原，栗山，後藤，諏訪，武若，松山，陸田，森屋，大村（八木委員兼幹事の代理），山城，横木の各委員兼幹事，下園幹事

資料：

- ・平成 25 年度第 2 回海岸工学委員会幹事会の議事（資料 1）
- ・第 60 回海岸工学講演会の参加者等に関する資料（資料 2）
- ・PowerPoint スライド（資料 3）

### ■審議・報告事項

#### 1. 前回議事録の確認

WEB に公開済み

#### 2. 報告事項（佐々木幹事長）

##### (1) 委員の派遣について

- ・国土強靱化委員会派遣に佐藤委員長と横木委員兼幹事を派遣した。
- ・地球環境委員会検討テーマ「気候変動の影響と緩和・適応方策の検討（仮称）」に森小委員長および横木委員兼幹事を派遣した。
- ・原発汚染水 TF に佐藤委員長，同海洋影響評価 WG に佐藤委員長（主査），八木委員兼幹事，佐々木幹事長を派遣した。

##### (2) 海岸工学講演会東京開催を下園幹事が担当

当初，オブザーバーとして検討したが，内規細則に存在しない可能性があり，委員長指名幹事も含め，幹事長が検討することとした。→ 議事後，委員長指名幹事（定数 2）の 1 枠を使用することとした。

##### (3) 議事前報告

- ・台湾海洋工学会との MOU 締結（佐々木幹事長）
- ・JSCE-PICE フィリピン高潮災害調査団報告会について（田島副小委員長）
- ・H26 年度重点研究課題助成への申請について（佐々木幹事長）。柿沼小委員長より不採択であったと報告された。
- ・H26 年度ジョイントセミナー助成に関して，フィリピン PICE と共同で高潮防災をテーマに，田島副小委員長に準備いただき申請した。採択の可否に関しては未発表である。なお，議事後の 4/14 に採択された旨，通知があった。（佐々木幹事長）

- ・第 60 回海岸工学講演会報告（山城委員兼幹事）
- ・「土木学会の 100 年」発行準備，2005 年から 2014 年の海岸工学委員会活動記録執筆（佐々木幹事長）

### 3. 海岸工学論文集第 61 巻応募論文審査・講演会 short session について（岡安小委員長，田島副小委員長，佐藤委員長，佐々木幹事長）

#### (1) 第 1 段審査報告

- ・第 1 段審査：登録論文数 382 編（和文：352，英文：22，short session 企画 7，同一般 1）
- ・査読者割り当て：幹事会，論文集編集小委員会，その他の各グループから第 2 専門分野まで配慮．約 16.75 編／人
- ・査読受諾意思確認：幹事 27 名，海岸委 18 名，編集委 20 名，その他 49 名，計 114 名

#### (2) 通常号および CEJ 掲載分の講演会発表枠

- ・通常号からの発表希望は 1 であった．
- ・CEJ を外す方向で進める．ただし，今年度は既に問い合わせ済みである．

#### (3) 査読手順について

- ・査読者 5 名，1 人 6 点，専門性を考慮して割り当てる．
- ・スケジュール  
2 月 25 日第 1 段審査の仮依頼  
3 月 20 日第 1 段審査の正式依頼  
4 月 4 日査読者による採点入力完了(締切は 4/3)  
4 月 5~11 日第 1 段審査採択(案)協議

#### (4) ショートセッションに投稿された論文について

- ・投稿全 8 編のうち，7 編が企画，1 編が一般であった．
- ・査読は通常論文と同じルール(6 点満点×5 人)であるが，ショートセッションであることが分かった上で（ヘッダーに明示），執行部にて行った．
- ・最高点 25、最低点 19 で全て採択のレベルであると判断した．
- ・企画に投稿された 7 編は企画セッションで発表する．
- ・一般セッションの 1 編は通常論文と同じセッションで発表する．
- ・一般が 1 編であるため，発表時間は 20 分となる可能性もある．
- ・査読結果と投稿数を考慮して審議した結果，企画のみが妥当であるとの結論に達した．
- ・企画の論文は 8 編なので 2 セッションで十分であろう．

#### (5) 各論文の評価点について

- ・1 点と 2 点はコメントを入れることになっているので低い点数を選びにくいとの意見があったが，執行部にて 2 点以下の論文を審議する際の参考のためコメントが必要である旨回答があった．

#### (6) 通常論文の査読結果と採択案

- ・17 点以上の論文全てを採択する．6 会場を最大限に利用することで対応可能である．
- ・来年度以降は 5 会場のため，採択率が下がる可能性がある．

#### (7) 英語論文について

- ・英語論文を日本語論文と比較すると情報量が少ないと感じるとの意見があった。これに対し、英文の字数に関しては、日本語アブストラクトの1例を英訳して決定した旨紹介があった。一方、図表のキャプションに関しては字数を食うため不利があるとの指摘もあった。
- ・本年度は本論文5ページとするが、来年度以降については継続審議とすることとした。
- ・採択率を比較すると両者で特段の差異は認められなかった。
- ・英語論文を査読付き論文として認めることで、国際ジャーナル論文を投稿するための練習台として利用できるというメリットがあるとの意見があった。
- ・この他以下のような意見があり、今後も英語論文の扱いは継続審議とすることとした。
  - ・CEJ との関係を明確にする必要がある
  - ・CEJ と海岸工学論文集との役割は大きく異なる
  - ・今後の方向としては英語論文を査読付き論文としていく方がよい

(8) 今後のスケジュール

- ・5/22 (木) 第2段審査論文提出締切
- ・5/23 (金) 論文集編集小委員会, 第2段査読依頼
- ・6/05 (木) 査読報告締切
- ・6/12 (木) 査読報告総括締切 (主査)
- ・6/12 (木) 論文集編集小委員会・小委員長が査読結果を確認
- ・6/13 (金) 第2段査読結果の一斉通知
  - A 判定→最終原稿を郵送提出 (締切 7/2)
  - B 判定→最終原稿を郵送提出&web 提出 (締切 7/2, web には修正報告書も提出)  
主査は修正内容を確認。問題がある場合には cec へ連絡(7/11 締切)
  - C 判定→修正原稿, 修正報告書を web 提出 (締切は 7/2)  
主査が再査読 (締切 7/11) の後, 最終原稿を郵送提出(7/25)
  - D 判定→論文集編集小委員会・委員長等が確認のうえ返却
- ・今年度から B 判定を復活させたが以前の B 判定とは異なり, 最終原稿提出締め切りが A 判定と同じである。

(9) 査読者の割り当て

- ・幹事会から主査, 論文集編集小委員会から副査 1, その他から副査 2 とする。

(10) 第2段査読後の原稿提出について

- ・提出期日
  - 平成 25 年 7 月 2 日: 「登載可」の論文提出 (学会へ郵送)
  - 平成 25 年 7 月 2 日 17:00: 「修正後に判定」の論文の修正原稿提出 (web)
- ・提出物および提出方法
  - a) 第2段審査時  
pdf ファイル→海岸工学委員会 HP より電子投稿 (修正報告書)
  - b) 第2段審査後 (A 判定論文)  
pdf ファイル (整理番号.pdf)  
テキストファイル (整理番号.txt)

図・表・写真などの電子ファイル

図（整理番号-fig-図番号.拡張子）

表（整理番号-tbl-表番号.拡張子）

写真（整理番号-pht-表番号.拡張子）

原稿提出明細書（M-整理番号.csv）

(11) JSTAGE 関連

- ・講演会までに公開する。
- ・昨年度は No.1 が通常号，No.2 が特集号．海岸工学論文集は No.2 として発行される．

(12) 原稿執筆要領

- ・カラー図表可：J-Stage に掲載される PDF ファイルには，カラー図表が使用される．
- ・J-Stage 登録のための指示を徹底する．
- ・冊子体論文集に掲載される図・表・写真は白黒であるので，色によっては意図どおり印刷されないことがあることを周知徹底する．
- ・事前にモノクロプリンターで出力，あるいは白黒コピーを取るなどして，鮮明度の確認が必要である．
- ・カラー図面等を最終原稿として提出された場合は，著者校正において鮮明度の確認が必要である．

(13) 論文集編集の検討課題および意見交換

- ・組版，冊子体の存廃等，論文集の将来検討
- ・土木学会論文集 B-2（通常号）への投稿促進策
- ・英文論文（全文査読）の募集を開始（投稿数 22）
- ・海岸工学講演会の活性化
- ・企画セッションについて，発表 1 年前くらいには企画を決定しておく必要がある．
- ・今年度の英語論文の投稿数は昨年の Proceedings と同程度であった．
- ・アブストラクトを今年度から概要集として web 公開することとしている．公開方法について議論した結果，今年度は次のように対応することとし，幹事長がマネージすることとした。
  - ・企画セッションについては記録として残るよう，web 上に恒久的なページをつくり，目次からアブストラクト pdf へのリンクを張る．
  - ・すべてのアブストラクトは論文番号を付与し，zip でアーカイブしてパスワードをかけ，web からダウンロードできるようにする．ダウンロード期間は 1 年間を目安とする．

(14) 著者負担金と論文集価格

- ・著者負担金は 40,000 円を上限とする
- ・論文集定価：5,000 円
- ・著者負担金の増額要因として，講演会会場費が嵩む場合が考えられる．会場費を抑えられるような場所を選択する必要があるとの意見があった．

(15) JSTAGE 作業について

- ・本年度も特別号のみ例年と同じ業者とする．
- ・早めの校正，組版完了が必要である．
- ・英語論文の最終原稿は camera-ready とし，組版はしない．

#### 4. 海岸工学論文集の将来検討（H27年度以降対応）について（北野委員兼幹事）

- ・版下原稿作成の是非と、冊子体廃止（2015年度）の是非について検討した。
- ・冊子体の広告収入は100万円程度であり、廃止することで発生するデメリットもある。
- ・論文集出版にかかる経費（2012年度の実績）が紹介された。B3のコストパフォーマンスが高いが、講演会の規模が小さく、会場費が抑えられることが一因と考察された。海工では講演会にかかる費用が高く、組版を止めても著者負担金は5,000円程度しか安くならないと試算された。
- ・冊子体は廃止することで合意され、委員会にて審議決定することとした。
- ・水工では全文の2段階査読であるため、版下原稿のチェックを行いやすい。海工では冊子体を止めることで、版下原稿のチェックを行うための時間に余裕が出来るだろう。
- ・版下原稿の質を確保するため、土木学会提供のOnlineのWord組版を利用する手も考えられる。
- ・土木学会論文集通常号のフォーマットに合わせた方がよいのではないかとの意見があった。
- ・土木学会論文集通常号のフォーマットにするのであれば6ページに変更する方がよさそうである。
- ・昨年度海工の査読用論文原稿を利用して、体裁に問題のある原稿がどのくらいあるか等、組版の必要性の有無を検討した後に、版下に移行するかどうかを決定することとし、6月の委員会にてWGの検討結果を基に審議することとした。

#### 5. 第61回海岸工学講演会の準備状況について（水谷委員兼幹事：代理川崎副小委員長）

- ・日程：平成26年11月12日（水）～14日（金）
- ・会場：ウィンクあいち（名古屋駅前 徒歩5分）
- ・見学会：名古屋港＋飛島コンテナ・ターミナルツアー
- ・高速道路上の車窓から名古屋港見学
- ・懇親会：11月13日（木），キャッスルプラザ
- ・前日シンポジウムの提案2件（テーマ1：武若委員兼幹事・森小委員長，テーマ2：越村副小委員長）  
日時：11月11日（火）夕方2時間程度，場所：ウィンクあいち  
テーマ1：海岸工学分野における気候変動適応の研究，三村信男氏他  
テーマ2：津波関連，富田孝史氏（キャンセルの可能性がある）

#### 6. 第62・63回海岸工学講演会の開催（会場など）について（下園オブザーバー）

##### 第62回海岸工学講演会

- ・日程：平成27年11月11日（水）～13日（金）
- ・会場：タイム24ビル（臨海副都心青海）
- ・前日シンポジウム，会場：未来科学館
- ・見学会：候補1 東京港見学・クルーズ  
候補2 港湾空港技術研究所 施設見学
- ・懇親会：11月12日（木），タイム24ビル11F
- ・第6会場を用意しておくことで収入増を見込める可能性があるとの意見があった。

##### 第63回海岸工学講演会（青木委員兼幹事）

- ・日程：平成 28 年 11 月 16 日（水）～18 日（金）（案）

#### 7. Coastal Engineering Journal について（渡部小委員長）

- ・ CEJ Award に関する表示変更（名前の変更 Coastal Engineering Journal Award 等）に関して審議し承認された。CEJ は Coastal Engineering in Japan が今でも続いていることを連想させ、マイナスの印象を与えるとの指摘がエディタからあったことによる提案であるが、JSCE の文言は残すこととした。
- ・ Technical Note の対象に prompt report for coastal disasters の文言を加える提案がなされ、承認された。
- ・ 新エディターが提案され承認された。
- ・ 現在、年間掲載論文数が 15 編程度であり、これを 30 編程度に増やすことを目標としている旨紹介があり、その方策として、特集号を毎年出版したいので協力して欲しい旨要請があった。
- ・ CEJ Citation Award を新設したいという提案がなされ、承認された。
- ・ CEJ Award 及び JAMSTEC 中西賞について選考方法の紹介および候補論文の提案がなされ、承認された。
- ・ CEJ の投稿状況について紹介があった。

#### 8. 研究小委員会等の活動について（広報、沿岸域、津波、波動モデル各小委員長）

- ・ 広報小委員会の活動状況について報告がなされた。（森小委員長）。
- ・ 土木学会から海岸工学委員会に対して国際関連の活動の紹介のための原稿依頼が届いた。広報小委員会委員長が対応することとした。
- ・ 沿岸域からは特に報告はないとの事前連絡があった旨紹介された（佐々木幹事長）。
- ・ 津波小委員会の活動報告が行われた（越村副小委員長）。
- ・ CEJ 特別号への小委員会の研究成果の取りまとめを計画していることが紹介された（越村副小委員長）。
- ・ 波動モデル小委員会から活動報告が行われた（柿沼小委員長）。

#### 9. 第 50・51 回水工学に関する夏期研修会（B コース）について（山城委員兼幹事）

##### 第 50 回水工学に関する夏季研修会（山城委員兼幹事）

- ・ 8 月 25 日（月）～8 月 26 日（火）に九州工業大学で開催される。
- ・ 検討事項

##### 1. パワーポイントのコピーの許可（昨年度の実施内容）

各コース 1 名ずつ講演者の方から許可を頂き、聴講者がパワーポイントをコピーする機会を設ける。講演者のどなたに許可を頂くかは要検討。

##### 2. 講義集の一部を事前公開（昨年度の実施内容）

各講義資料の最初の 2 ページだけ WEB で事前に公開。

##### 3. パネル展示（昨年度の実施内容）

昨年度は中部地方整備局の関連団体（中部建設協会）から、伊勢湾台風や近年の豪雨水害などのパネル展示があった。何か展示できるものがあれば、今年度も実施したい。

##### 4. 学生の参加費

学生の参加費を下げて、学生が参加しやすくしたいとの提案があり、検討することとした。

##### 第 51 回水工学に関する夏季研修会

・順番からすると関東地区が候補であるが、海岸工学講演会の関東開催と重なる。幹事長が世話役候補と個別に相談することとした。（佐々木幹事長）

#### 10. その他

なし。

次回の海岸工学委員会は、6月10日（火）14:00～

記録(中山)